



イメージキャラクター
SAKURA ちゃん

女子高校生と女性技術者による「よこて建設女子会」 ～女性活躍推進で建設業を改革へ～

かがや よしのり
加賀屋 好宣*

1. はじめに

ご承知のとおり女子会とは女性だけで集会を開き、女性だけで話をする会のことである。「よこて建設女子会」は秋田県横手市にある建設会社で働く女性技術者・行政機関の建設部等で働く女性職員の社会人チームと建設業に興味のある女子高校生による女性集会である。



写真-1 集合写真

2. 取組みの背景と目的

建設業の持続的発展のためには、男女ともに働きやすい職場づくりが不可欠であり、そのためには女性活躍の取組を強化していく必要がある。

1) 背景

本県の建設業は、インフラ整備や除雪などを担う産業であり、雇用の約1割を支える基幹産業である。

しかし、高齢化と新規入職者の減少により担い手不足が深刻化しており、特に、女性が少ないことが大きな課題の一つとして指摘されてきた。

2) 事業目的

女性の新規入職者を増やしていくためには、建設業で活躍する女性の姿を若者に対して積極的に情報発信していく必要がある。

このため、現場で働く女性技術者と女子高校生が交流する場として女子会を開催することとし、イベントの開催を通じて経営者の意識改革も進めていくこととなった。

3. 「よこて建設女子会」の開催状況

この女子会は、県建設部が建設産業の振興と担い手の県内定着を促進するため、建設業団体等の取組みに対して支援する「建設業担い手確保育成支援事業 平成28年度企画提案募集」に応募したことから始まる。

当協会では「PR動画・TVCMによるイメージアップ」「大学・専門学校生のインターンシップ交通費助成」「女性活躍推進」の三つの取組みを提案させていただいた。その三本柱の一つ女性活躍推進の具体策が「よこて建設女子会」の開催である。

1) 平成28年度 第1回

サブタイトル：「集まれ！横手をつくる女性たち」

開催日：平成28年11月26日（土）13:30～16:00

参加者：26名【高校生(14)、行政(5)、建設業(7)】



写真-2 土木工事見学会

内 容：土木工事見学、建設業PRタイム、パネルディスカッション

2) 平成29年度 第2回

サブタイトル：「ツクル、ヨロコビ。」

開催日：平成29年9月2日（土）9:30～16:30

参加者：30名【高校生(19)、行政(5)、建設業(6)】

内 容：街づくり講座、土木・建築工事見学、ランチミーティング、街づくりワークショップ、意見発表



写真-3 ワークショップ

3) 平成30年度 第3回

サブタイトル：「ミライは、わたしたちがツクル。」

開催日：平成30年11月17日（土）9:45～16:45

参加者：31名【高校生(17)、行政(8)、建設業(6)】

内 容：土木・建築工事見学、ランチミーティング、ドローン体験会、ICT活用講座、意見発表



写真-4 ドローン体験会

4. 「よこて建設女子会」の効果について

女子会の開催により、大きく分けて次の三つの効果が得られたと考えている。

1) 建設業への理解とイメージアップ

(1) 参加者アンケート調査より

- ・建設業でも女性が働きやすい環境であることを知ることができた。
- ・実際に働いている人との交流ができ直接話を聞けたので、夢に近づけたと思いました。
- ・街を歩いて地域の良いところ、良くないところに気づくことができた。地域を活性化させたい！
- ・私たちの生活に深くかかわっている仕事だと知り、大変そうではあるけれど、その分やりがいのある仕事と感じた。

(2) マスメディアとSNSによる魅力発信

想像以上に女子会への関心が高く、テレビ・新聞等で多く取り上げていただいた。女性限定にしたことが、話題性や注目を集めることにつながったと感じている。

また、女子会を撮影し2分程度のPR動画とテレビCMを制作し、建設業で働く女性と、建設業に関心のある女子高校生の存在を視覚でも伝えることができたと思う。

2) 女子会参加者を含む新卒入職者数の増加

当協会会員企業（20社）の新卒採用状況は、5年前の平成26年度の採用者数がわずか5名と低調であったが、今春の平成31年度には16名まで採用者数を伸ばすことができた。そのうち女子会に参加したことのある女性技術系入職者は昨年度が1名、今年度は2名となっており、今後もこの増加傾向を維持できるよう事業の充実を図ってまいりたいと考えている。

3) 業界関係者にもたらした効果

(1) 経営者の意識改革と学校との連携・協働

女子会の準備段階から若手経営者に深く関わっていただいた。参加者を確保するために教育委員会を含む学校関係者との事前協議、国交省・農水省・秋田県・横手市の女性職員の派遣依頼などに奔走していただいた。そのような事前作業や運営に携わることによって、学校関係者や高校生が、また発注機関である行政が何を求めているのかを直に感じることができる機会となり、若手経営者

にとっても貴重な経験になったと思う。

また、学校関係者と意見交換をする中で、工業系の高校には2級土木・2級建築施工管理技士試験対策用にテキストの無料提供と受験対策講座への講師派遣などの要望に答えることができた。また冬休み期間中に高校2年生を対象とした出前企業説明会をさせていただくことにもつながり、高校と連携した新たな事業を実施することもできた。

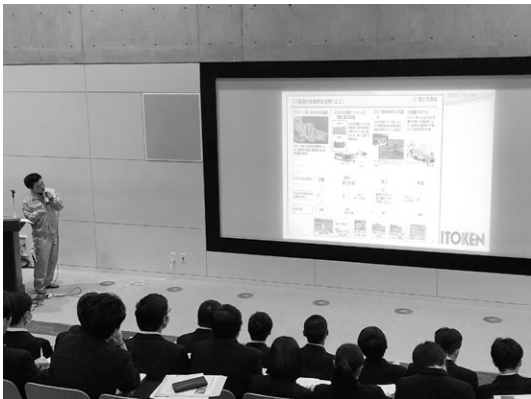


写真-5 出前企業説明会

(2) 女性部の設立と活動

第1回建設女子会の開催を契機に女性部組織設立の機運が高まった。それぞれの企業では女性職員が少なく、特に現場で働く女性技術者にとっては相談相手となる同性職員はほとんどいない状況であった。女子会の準備を進め交流を深める中で、先輩方の様々な経験談などを聞くことができる格好の機会となっていたようである。企業の垣根を越えた交流の場がほしいとの思いから平鹿建設業協会女性部「SAKURA」は、一年ほどの設立準備期間を経て平成29年10月11日女性職員39名で発足した。

また女性部SAKURAは、行動計画「私たちがツクル、新しい建設業のカタチ。」4つの取組みを掲げている。

- ・建設業に入職する女性を増やす
- ・私たち自身が会社に必要とされる人材になる
- ・働き続けられる職場環境をつくる
- ・建設業での女性の活躍の姿を広く社会に発信する

この4つの取組み行動計画に基づき、これまでに実施した主な活動を紹介する。

- ・高校生の祭典「さんフェア秋田2017（全国産業教育フェア秋田大会）」へのブース出展
- ・「岩手県建設業女性マネジングスタッフ協議会との意見交換会」の開催
- ・「スキルアップ研修会」の開催（計4回）
- ・他管内の女性技術職員を招待しての「事業報告会・交流会」の開催



写真-6 “さんフェア秋田”ブース出展

5. おわりに

現実も一般的なイメージも「建設業＝男社会」の中であって、女性に限定したイベントを企画提案することは容易ではなかった。関係者の中には、「我々が必要としている人材は若い男性だよ。」これも当然の意見であろう。しかし、国が男女共同参画社会や働き方改革を推進する中で、我々の業界だけが不可能なはずはない、むしろ建設業ではまだまだ少数である女性にこそ目を向け、意見を聞き、女性が活躍できる労働環境を整えることが、いずれは人材の確保、育成、定着につながるものと信じている。

地域建設業の社会的使命・役割を果たしていくためにも関係各位の更なるご支援ご協力をお願い申し上げます。